

第12号議案

社会資本整備総合交付金事業(河川改修)
 一級河川休泊川きゅうはくがわ 太田市・大泉町

着工年度
 評価理由

平成4年度
 再評価後5年経過

1. 事業の目的

休泊川は太田市東部から大泉町市街地を流下し、利根川に注ぐ河川延長約6.9kmの一級河川である。河積狭小による流下能力不足により、家屋浸水や主要道路の冠水被害が頻発しており、未改修となっている(国)354号から上流の河道拡幅を実施して浸水被害の軽減を図るものである。

改修にあたっては、利根川合流部の排水ポンプ(直轄管理)能力に応じた河道拡幅計画となっているが、当面は直轄施工である排水ポンプ増強の目処が立っていないため、暫定計画で整備を進め、排水ポンプが増強された場合に将来計画に移行する計画である。



橋桁に達する出水



浸水想定図

2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	おおひづみまちにしこいずみいちょうめ おおたしうちがしま 大泉町西小泉一丁目 ~ 太田市内ヶ島	
	今回	前回(H17)再評価時
全体事業費	暫定 2,740百万円 (将来 3,150百万円)	3,150百万円
全体事業費増減の理由	事業計画見直しによる減少	
事業期間	H4 ~ H28	H4 ~ H24
事業内容	河川延長 3,800m 計画規模 暫定1/3 (将来1/30) 計画流量 暫定34m³/s (将来70m³/s) (現況流下能力約13.5m³/s)	河川延長 3,800m 計画規模 1/30 計画流量 70m³/s (現況流下能力約13.5m³/s)

事業経緯

進捗状況

年度	主な経緯	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
H4	用地買収着手			
H19	工事着工	2,740百万円	1,701百万円 (62.1%)	1,250百万円 (45.6%)
H20	(国)354号 泉大橋架替え	19,000m²	15,328m² (80.7%)	14,476m² (76.2%)
H22	(町)泉橋架替え	3,800m	40m (1.1%)	0m (0%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

暫定流量による改修計画平面図



下流整備済みの休泊川



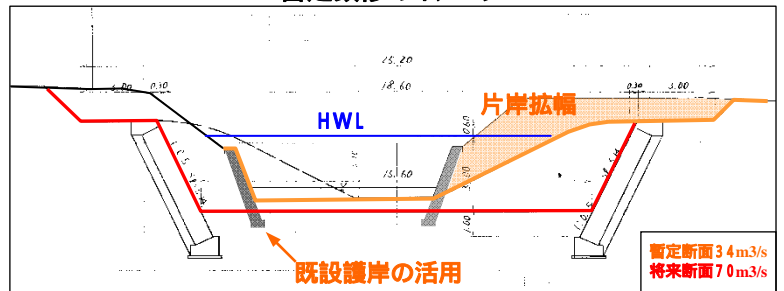
整備中の(国)354号泉大橋



未改修区間(用地買収済み)



暫定改修のイメージ



東毛広幹道協調区間
(暫定掘削完了)



未改修区間



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

本川は市街地を流下しているため、沿川には住宅のほか国道や鉄道の主要交通路線、小学校や町の上水道施設など多くの資産が集中しており、溢水による浸水被害は甚大なものがある。近年でも平成10年に家屋浸水が発生したほか、平成16年、19年には洪水が国道の橋梁に達したため、一時道路を通行止めとする事態となった。本川の流下能力不足は明らかであり、度重なる浸水被害から沿川地域を守るため、本事業による河道改修を進め、治水安全度を高める必要がある。



泉大橋上流の出水状況



出水による橋桁の状況



出水により橋梁区間を通行止

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

流下能力を確保するためには断面拡幅が必要であるが、沿川は市街地であり住宅が密集しているほか富士重工業大泉工場など工業・商業資産も多いことから、他の経路や調整池建設等の代替案は実施困難である。現在下流から順調に用地買収を進めてきていることから、現計画の河道拡幅による改修が最良の方法である。なお、計画流量での改修には下流排水機場(直轄管理)のポンプ増強が必要であるが、現状では国の増強工事の予定が無く、計画流量での改修の目処が立たないため、当面は現状のポンプ規模にあわせた暫定流量(確率1/3程度)での全川改修を進めることとし、買収済用地や既設護岸を有効活用しながら事業効果の早期発現が図られるよう事業計画の見直しを行った。



改修の起点部
下流は過去に改修済みの休泊川



泉大橋上流の未改修区間



広幹道上流の未改修区間

費用便益分析

		前回 (H 1 7) 再 評 価 時		今 回 再 評 価 時		備 考	便 益 説 明
算 出 根 拠 マ ニ ュ ア ル		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月			
基 準 年		平成17年		平成21年			
区 分	項 目	現 在 価 値	構 成 比	現 在 価 値	構 成 比		
費 用 (千 円)	工 事 費	3,204,000	92.5%	2,947,100	92.3%		
	維 持 管 理 費	258,000	7.5%	257,900	7.7%		
	残 存 価 値			-	-		
費用合計 (C) : + -		3,462,000		3,205,000			
便 益 (千 円)	一般資産被害軽減 便益	5,935,900	34.5%	7,008,200	33.8%	氾濫面積A=435ha 浸水家屋N=4,919戸	
	農作物被害軽減 便益	42,500	0.2%	109,400	0.5%		
	公共土木施設等被 害軽減便益	10,054,200	58.4%	11,869,800	57.3%		
	営業停止被害軽減 便益	542,100	3.1%	421,200	2.0%		
	応急対策費用軽減 便益	648,300	3.8%	1,239,100	6.0%		
	残存価値	-	-	86,700	0.4%		
便 益 合 計 (B) : + ~ +		17,223,000		20,734,400			
費用対効果分析 (B / C)		4.97		6.47		B/Cは将来計画にて算定	

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

【元々が長期計画】

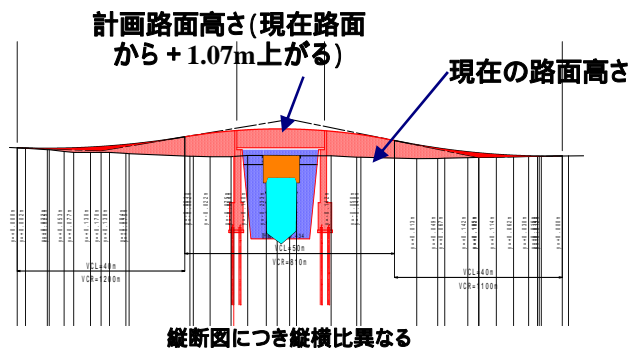
河川事業では、氾濫の危険箇所を改修して流下能力を上げた場合でも、その下流に新たな氾濫を起こさないようにするため、下流から一定の治水効果を確認していく必要がある。

このため、本河川においては3,800mの河道改修が必要であり、長期計画となっている。

【不測の事態により長期化】

流下能力上最もネックとなっている最下流部の(国)354号泉大橋について、当初橋梁架替後の橋面高さが現状より1.4m程度上昇する計画であったため、周辺住民の理解が得られず、度重なる説明会の開催や橋梁形式の設計変更などに時間を要し、長期化している。これについては平成20年度に住民の賛同が得られたことから、現在架替え工事中であり、平成22年度の完成を予定している。

泉大橋改築による路面高さ(縦断面図)



6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

- ・本事業は、河道拡幅による改修によって沿川の浸水被害を軽減するための事業である。
- ・計画区間下流部より順次改修を進めており、最大の懸案であった泉大橋の架替え工事も地元の賛同が得られH22に完成する。
- ・流域の市街化による流出増により近年でも浸水や道路通行止めなどの被害が頻発している状況であり、事業の必要性は依然高い。
- ・泉大橋の架替えについて地元調整に時間を要したことから、事業期間を4年間延長する。
- ・下流排水機場(直轄管理)のポンプ増強の目処が立たないため、当面は現状のポンプ規模にあわせた暫定流量(確率1/3程度)での全川改修を進める事とし、買収済用地や既設護岸を有効活用しながら事業効果の早期発現が図られるよう事業計画の見直しを行った。
- ・泉大橋がH22に完成するため、今後は上流の護岸整備が進捗する見込みである。用地買収も下流から順調に進んでいるほか、協調事業である東毛広域幹線道路整備とも連携しながら事業を進めており、暫定計画による河道改修によって早期事業効果の発現に努め、平成28年度完成に向けて計画的に進めていきたい。